



# 全佐久だより

令和6年2月8日  
全佐久PTA連合会発行  
No. 3 (通算第79号)

## 令和5年度 新旧会長研修会

全佐久PTA連合会副会長 高見澤 奈留美

11月18日(土)令和5年度全佐久PTA連合会新旧会長研修会が佐久教育会館会場とオンラインのハイブリットにより開催されました。子どもとメディア信州代表の松島先生を講師に招き『子どもがスマホを持つとき大人や家族がすべきこと～ネットいじめや人権侵害・性被害を防ぐために～』と題しご講演をいただきました。スマートフォンが子どもたちに大きな影響を与えている社会で、子どもの心をどう育てていくか親のかかわり方の重要性についてお話ししていただきました。身近で起きている様々な事案から、InstagramやTikTokはAIが拡散させる仕組みで良い情報しか伝わってこない事、またゲーム依存から命に対する尊厳や相手を思いやる心が無くなっていく事など、ネット社会が子どもに大きな影響を与えていると感じました。親もスマートフォンが日常になり子どもとのコミュニケーションが減っている今、子どもがトラブルに巻き込まれ困って発信してきた時、耳を傾けて寄り添える家族や地域との繋がりが子どもの心を育てていくのに最も重要であるという事を教えていただきました。



参加いただいた新旧会長の皆さんにとって、本研修会が今後のPTA活動や家庭でのお子さんとの関わり方を改めて考えるきっかけとなればうれしく思います。

### 参加された皆さんの感想(抜粋)

- ◆ 松島先生のお話は何回も聴かせていただいておりますが、タイムリーで問題になっている事案を教えてくださいるのでとても為になります。講演も良いが対話式の座談会のような形式も良いかと思います(お聞きしたいことがあったため)
- ◆ 2回目の講演内容でしたが漏れなく聞いて良かったです。
- ◆ スマホの使い方をもう一度親子で考えたいと思います。
- ◆ 講演を聞いてあらためて気が付いたことは、ネットは悪いばかりで無いことなど考えさせられることがたくさんあり、スマホも本人の向き合い方次第で変わるものだと思います。時間の都合上だいぶ短かったのが残念でした。
- ◆ 家庭教育が基本だよと改めて思った。子どもと一緒に〇〇するって事を増やしたい。

## 浅科望月合同PTA講演会の報告

佐久市立浅科中学校長 佐藤 元昭

望月小・中学校と浅科小・中学校の単位PTAからなる「望月浅科連合PTA教育懇談会」では、毎年11月上旬に合同PTA講演会を開催しています。今年度は、浅科中学校を会場として11月2日に講師 比田井和孝先生をお招きし、「すべては子どもたちの幸せのために」という演題でお話をお聞きしました。比田井先生は、上田情報ビジネス専門学校の副校長としてご勤務されながら、各地を飛び回って講演をされています。昨年度も全佐久PTA連合会新旧会長研修会で、PTA会長の皆様を元気づけるお話をしてくださいました。



今回の講演会の冒頭で、比田井先生は「お子さんにどうなってほしいですか？」と投げかけられました。この会ではこの質問に答える保護者はいらっしゃいませんでしたが、ほとんどの方が「健康で、生活に困らない程度のお金があって、愛する家族に囲まれて、周りから好かれて、信頼されるような人生を歩んでほしい。」と答えられるそうです。比田井先生が師匠と崇める木下晴弘先生のエピソードを紹介していただきました。有名塾の講師でカリスマ的存在であった木下先生は、塾で教えた何千人もの卒業生に電話して、現在幸せな人生を送っているか、なぜ幸せをつかんだのか、リサーチしたそうです。その結果、「幸せ」と答えたのは、周りの人を喜ばせられることに喜びを感じられる人、「不幸」と答えたのは、自分のことばかり考えて、自分にマイナスな出来事があると、他人のせいにしてしまう人、この差がはっきりわかったそうです。子どもを授かり物(親にとって都合の

良い子)として育てると、病んでしまう子が多いようです。子供は預かり物(社会にお返しする)として育てると、みんなに喜ばれ周囲からも信頼されて、幸せな人生を歩いていけるようです。「この学校は成長させてくれなかった。」という考え方は、自分をお客様扱いにしてしまいます。そうではなくて、世間がお客様として、周りの人を喜ばせられるように子育てをしていきたい。比田井先生ご自身のお子様のエピソードも交えながら、2時間以上大変熱く語っていただきました。講演会后に特製シールをいただくため、保護者の長蛇の列ができるほど、内容の濃い大変ためになるお話を聞かせていただきました。

## 単位PTA紹介 望月小学校

全佐久PTA連合会副会長 櫻井麻里子

望月小学校は佐久市の西部に位置し北に浅間山、南に蓼科山を望む風光明媚な高台に位置しています。児童数は297名(令和5年4月1日現在)です。学校教育目標は「3つの木を育てる」①学びあいの木(よく聴き、考え、表現する力)②思いやりの木(人を大切にする力)③汗をかく木(挑戦する力)が願う子供の姿として掲げられています。

PTA組織は5つの組織で構成されています。望月小の特徴としましては、協和財産区の林道整備作業(学年部)、8月15日に行われる市民祭「榊祭り」への児童参加(校外指導部)があり、その他の主な役割として、夏休みプールの当番決めと救命講座(教養厚生部)、PTA新聞発行(父親母親委員)、アルミ缶回収や運動着回収と販売(理事会)等を分担し行っています。児童数も家庭数も減少傾向にある中で試行錯誤が続いていますが、時代に合わせた改善をしながら役員同士協力し合い運営しています。



## 第55回 日本PTA関東ブロック研究大会 ちば大会

全佐久PTA連合会顧問 花岡薫

令和5年10月28日～29日に第55回日本PTA関東ブロック研究大会ちば大会が開催されました。ちば大会では、「Re:〇〇」～ちば発 明日につながるPTAのカタチ～をスローガンに、従来のブロック研究大会の形にとらわれず、いまPTAの抱えている問題や諸課題を共有し、令和にふさわしい「PTAのカタチ」を皆で探求していこうという趣旨で開催されました。



私たちは「Release発信しよう」をテーマとした第3分科会に参加してきました。今大会の分科会では従来のように研究委嘱PTAの発表を聞くだけでなく、発表後の質疑応答の時間を多くとり、会場と発表者の間で交わされる意見の中からそれぞれの単位PTAが抱える問題について解決へのヒントを得て行こうという工夫がされていました。

今回私が注目したのは流山市立南流山小学校の発表でした。流山市は新しい鉄道の開通により急速に人口が増えた町で、PTAへの参加意識は少ない土地柄であったようです。そのような中、「紙の資料が多い」、「共働が多い」、「PTA活動の意義が伝わらない」といった問題をICTツールの活用などにより、「事前資料配布で会議の時間を減らす」、「ハイブリッドでも会議に参加できるようにする」、「問い合わせの多い内容についてQ&AをHPで公開する」、「問い合わせフォームを作って個々の問い合わせに対応していく」など、保護者の皆さんにPTAの意義を伝え、参加しやすくやりがいのあるPTA活動を行っているそうです。また、ICTツールを使う事によるメリット、デメリットもちゃんと伝え、ツールを使うかどうかは納得を得たうえでそれぞれの家庭に判断してもらっているそうです。ICT化による効率化を進める一方で、それぞれの家庭の状況に合わせたPTA活動を行うため余分な業務が発生し非効率な面も発生しているようですが、納得と共感を得たうえで組織を運営していくことにより、PTAについての理解や会員同士の接点も増え、結果的に組織の活性化につながっている点に大変感銘を受けました。

## ～令和6年 能登半島地震災害義援金について～

この度の地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

報道等でご存じのとおり、能登半島地震の被災地では学校が再開されつつありますが中学生の集団避難等、通常の学校生活を送れるようになるにはまだまだ長い道のりであります。そこで全佐久PTA連合会として基金から10万円を義援金として送ることを理事会で決定いたしました。使途は被災学校の学用品の購入や学習環境の復旧に充てられます。PTA会員皆さまのご理解のほどよろしくお願い申し上げます。